

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 18	公益目的事業 19
主査名	谷口綾子 筑波大学教授	
研究テーマ	自動運転システムの社会的受容：実証実験から本格運行に向けた過渡期の課題の学際的検討	
研究の目的： <p>本研究では、実証実験から本格運行への過渡期にある我が国の AVs バスのあり方、方向性について、いくつかの課題に着目し、必ずしも AVs バス推進だけを目指すのではなく、AVs バスが社会にもたらすであろう意味、意義を学際的研究グループにて議論し、AVs バスのソフトランディングの一助とすることを目的とする。</p> <p>具体的には、以下のリサーチ・クエスチョン(RQ)を掲げ、調査分析に取り組み、その成果を研究グループで共有・議論した。</p> <p>RQ1：自動運転技術で想定される ELSI(Ethics, Legal and Social Issues)課題の論点整理 RQ2：自動運転車におけるトロッコ問題の実装 - 「正義」は実装できるのか RQ3：自動運転事故における報復の空白の存在有無と、道徳的運の影響はあるのか RQ4：自動運転車の事故回避を企図した交通ルール違反は許されるか：専門家と一般市民の比較 RQ5：自動・手動運転者混在空間での手動運転者の交通ルール違反対策はどのようにあるべきか RQ6：自動運転実証実験前後における参加者の社会的受容計測のための統一指標はどうあるべきか</p>		
研究の経過（4月～3月）： <p>4月～3月 上記 RQ に関する研究実施</p> <p>【研究会の開催】</p> <p>5月 対馬市における明治大学による自動運転実証実験の視察 5月 千葉市花見台団地における自動運転デモ_GACHA(Sensible 4)の視察 8月 名古屋大学にて研究会、三重県「湯の山素粋居」の宿泊者用自動運転システムの視察を実施 11月 土木計画学研究発表会(琉球大学)にて「自動運転の社会的受容」セッションオーガナイズ 3月 沖縄県北谷町にて研究会、アメリカン・ヴィレッジを巡回する自動運転車「ちゃたもび」の視察 3月 筑波大東京キャンパスにて研究会、こどもの移動と自動運転による変容可能性について議論 5月、7月、9月、10月、2月 東京大学にて「移動の社会学」に関する研究会</p>		
研究の成果（自己評価含む）： <p>上記 RQ を含む個別課題の研究を推進し、研究会にて共有、議論を行った。また、自動運転車両の実証実験の視察や開発者・担当者との議論を通じて、地域固有の課題について知見を深めた。さらに移動の社会学に関する書籍や映画をいくつか設定し、事前に読了・閲覧し、研究会にて議論した。</p>		
今後の課題： <p>2022年度は自動運転バスが定常運行されている地域(茨城県境町や沖縄県北谷町)の住民や来訪者を対象とし、シビックプライドなどに着目したアンケート調査を実施する予定であったが、対象地域の諸事情により実施できなかった。2023年度以降に対象地を拡大して、自動運転システムの社会的受容を評価する調査を実施したい。</p>		